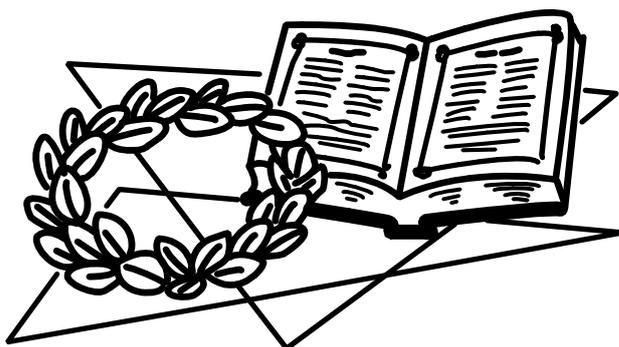


令和二年 度

# 第六十九回 港区短詩型文学展

# 入選作品

【と き】 令和二年十月三十日（金） ～ 十一月一日（日）  
午前十時 ～ 午後六時  
【と ころ】 ららぽーと名古屋みなとアクルス  
名古屋港区役所  
【主 催】 名古屋市教育委員会  
名古屋港区政協力委員会  
【後 援】 港区政協力委員会  
【協 力】 ららぽーと名古屋みなとアクルス





# 短歌の部

選者作品	特選	準特選	秀逸	佳作
クローバーの みどり生き生き 湖畔には コロナ来ぬやう 日傘を廻す 倉地 亮子	鼻歌が フフと出ずる 祖父なりや 大学生の 女孫の同居に 服部 初音	せめてもの 心明るく 生きたくて 赤いTシャツ 身にまといおり 武藤 伶子	にっぽんの 夜明け 八月十五日 七十有余の 歴史刻めり 成瀬 子遊	目に見えぬ コロナに割かれ なかなか 会えぬ友より 手作りマスク 中山 紀久子
	車椅子 免許なくとも 手で操作 音なく静かに 診察室へ 尾崎 浩人	初孫に 右往左往の 妹よ 猛暑、コロナ禍、 上手く 乗り切れ 高岸 直子	鮎二匹 絵に写し終え 役目済み 今宵夕餉の 主役となりぬ 鷺野 勝未	訳ありて 我が家に住みし 野良猫も いつの間にやら 主役の顔に 石野 順造
	落葉積む ふかふか路を 登り行く 初夏のこもれば 春蟬の声 川合 道子	瑠璃色の 朝顔に降る 雨優し 深き海ごと 心が染まる 森 まゆみ	町カラス 生ゴミ散らし うわさする「今日はだめだね」「ろくなもんじゃない」 西川 千春	十五夜の 月のうさが 餅をつき 眺める人に くぼる夢見ん 豊田 英子
	朝顔や 赤白青の 花競い 精出し延びて 天までとゞけ 尾崎 香月	車椅子 誰が名付けたや 車椅子 燃料要らずの 公害知らず 尾崎 都	おたやかな 自粛の夏の 縁側に 空しくテレビ 一人言なり 加藤 充	薄暗く 苔むし繁る 那智古道 雑木のトンネル 木々の間に 尾崎 節夫





